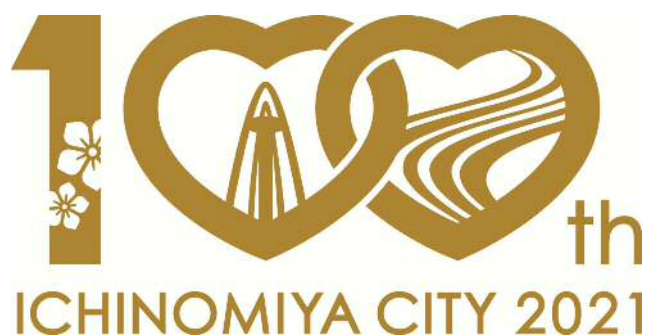


令和2年中 火災・救急・救助活動概況

(消防年報2021第71号簡易版)



一宮市消防本部

目次

ページ

- 1 令和2年中の火災・救急・救助概況 1

<火災>

- 2 過去10年間の火災発生状況 2

- 3 過去5年間の出火原因 3

<救急>

- 4 過去10年間の救急活動状況 4

- 5 曜日・月別救急搬送人員 5

- 6 年齢区分・傷病程度別救急搬送人員 6

<救助>

- 7 救助活動状況 7

- 8 過去10年間の救助活動状況 7



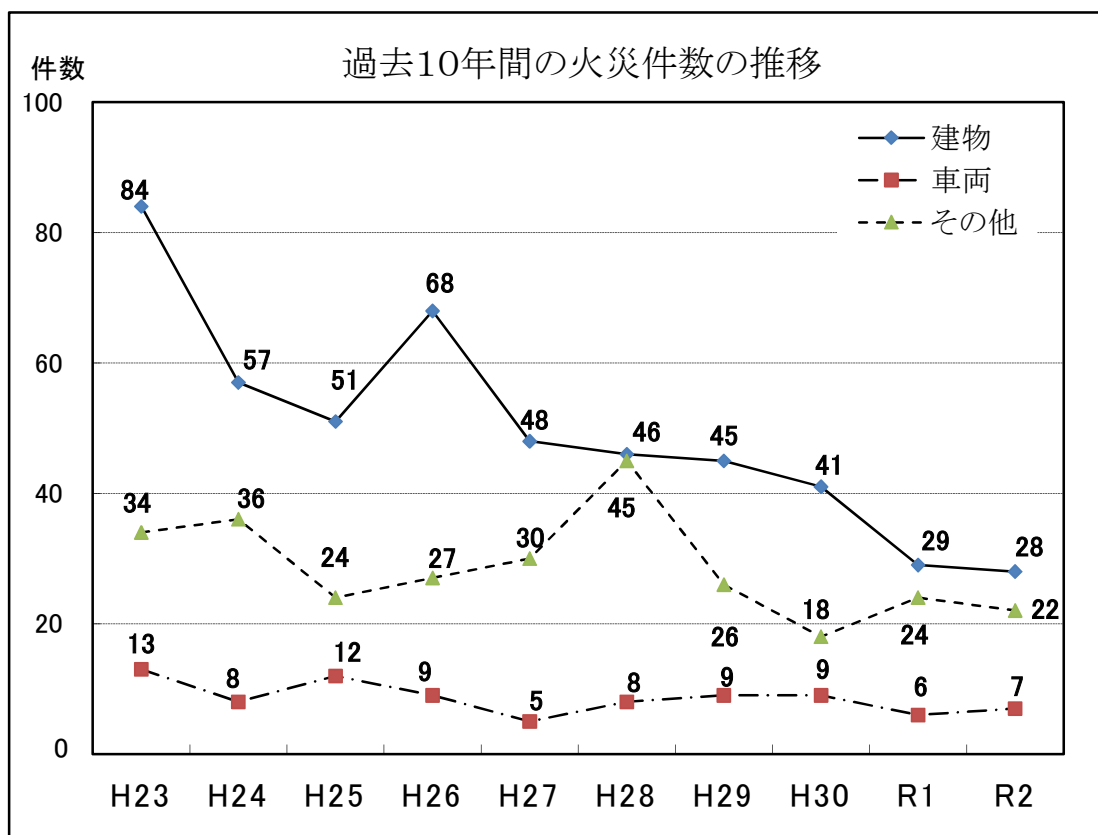
1 令和2年中の火災・救急・救助概況

災 害 種 別		令和2年中	令和元年中	比 較 (件数)	増 加 率 (%)
火 災	合 計	57	59	▲ 2	▲ 3.4
	建 物 火 災	28	29	▲ 1	▲ 3.4
	車 両 火 災	7	6	1	16.7
	そ の 他 の 火 災	22	24	▲ 2	▲ 8.3
	死 者	2	1	1	100.0
(考察) 火災件数は、57件と過去最も少ない件数です。死者は1名増加しました。 主な出火原因は、たき火、放火、放火の疑い、たばこなどです。					
救 急	出 動 件 数	16,361	18,626	▲ 2,265	▲ 12.2
	搬 送 人 員	15,513	17,716	▲ 2,203	▲ 12.4
(考察) 出動件数の増加率は令和元年中の1.9%増(352件)に対して、令和2年中は12.2%減(2,265件)となっています。 出動件数を事故種別で見ると、急病によるものが11,021件で最も多いものの、令和元年中との比較は1,777件の減少、次いで、一般負傷2,372件で令和元年中との比較は39件の減少、次いで交通事故1,234件で令和元年中の比較は264件減少となっています。 件数減少となった主な要因として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、不要不急の外出自粛に加え、病院内での感染を懸念し、医療機関を受診する人が減少したと推測されます。					
救 助	出 動 件 数	178	234	▲ 56	▲ 23.9
	活 動 件 数	114	125	▲ 11	▲ 8.8
	救 助 人 員 (人)	100	112	▲ 12	▲ 10.7
(考察) 救助事案の特徴としては、一人暮らしや家族が不在の場合に体調不良となり自力で玄関を解錠できず助けを求めたものなどの事故が72件(40.4%)で最も多くなっています。次いで交通事故により変形した車両内に閉じ込められたものなどの事故が49件(27.5%)で、次に玩具や椅子の隙間に身体の一部が挟まり抜けなくなったものなどのその他の事故が40件(22.5%)です。 件数減少(▲56件)となった主な要因として、国の統計事務の変更により算出方法が変わったこと、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による不要不急の外出自粛により、事故などが減少したと推測されます。					
建物等の事故による救助人員(65歳以上の高齢者の割合) ・令和2年 39人中30人(76.9%) ・令和元年 54人中35人(64.8%) ・平成30年 39人中26人(66.7%)					

2 過去10年間の火災発生状況

令和2年中の火災件数は57件で、前年の59件から2件減少しています。
 過去10年間で最も少ない火災件数でしたが、火災による死者は2人で前年に比べて1人増加しています。
 損害額は、建物火災により増額し、約7億9,200万円で、前年に比べて約5億9,600万円増額となっています。

区分	火災件数				焼損床面積 (㎡)	死傷者		損害額 (千円)
	合計	建物	車両	その他		死者	傷者	
平成23年	131	84	13	34	2,616	7	15	162,609
平成24年	101	57	8	36	1,818	2	20	116,025
平成25年	87	51	12	24	3,307	3	6	201,673
平成26年	104	68	9	27	4,255	5	13	248,407
平成27年	83	48	5	30	1,800	5	9	87,236
平成28年	99	46	8	45	814	3	16	55,087
平成29年	80	45	9	26	1,574	2	13	96,788
平成30年	68	41	9	18	2,579	4	10	365,878
令和元年	59	29	6	24	1,993	1	8	196,002
令和2年	57	28	7	22	4,720	2	8	792,224



3 過去5年間の出火原因

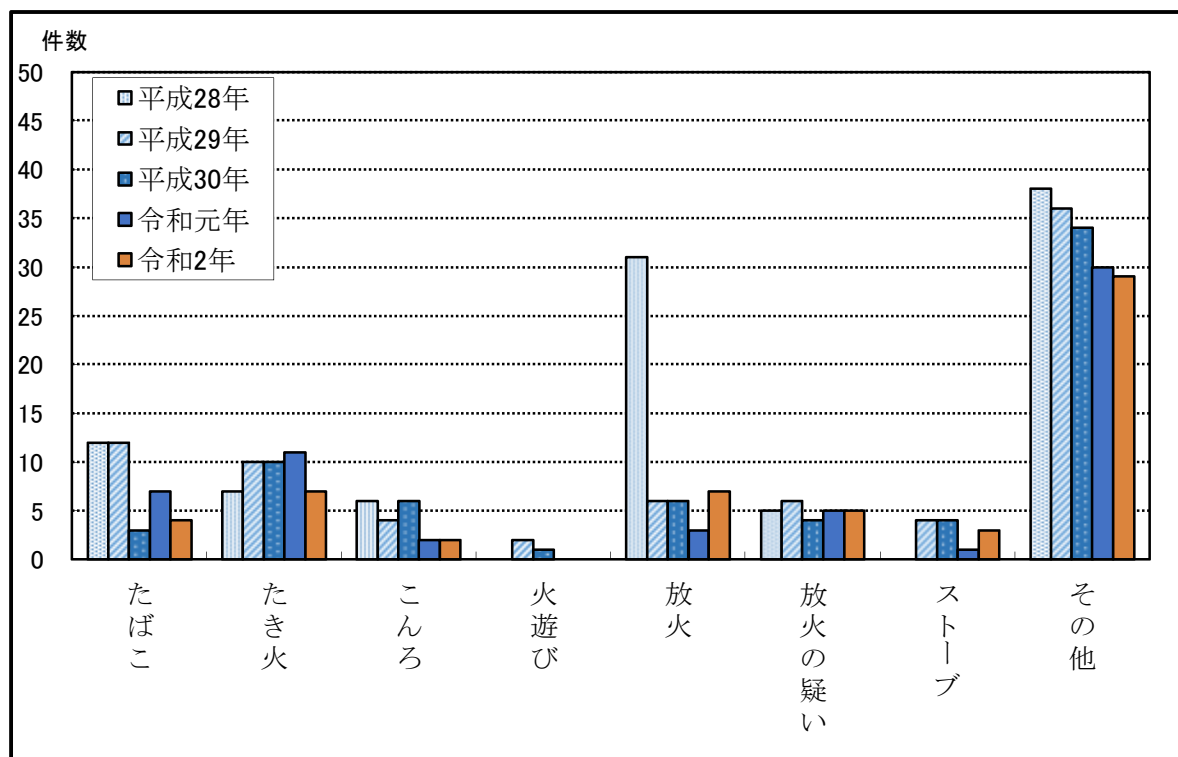
令和2年中の火災件数57件を原因別にみると、「たき火」及び「放火」が7件で、以下「放火の疑い」「たばこ」と続いています。

前年と比較すると、「たき火」が原因となった火災が11件から7件と減り、「放火」が原因となった火災が3件から7件と増加しました。

また、平成28年中の放火件数は31件となっていますが、これはのぼり旗等を燃やされる火災が連続して20件発生したことが要因となっています。

(単位 件)

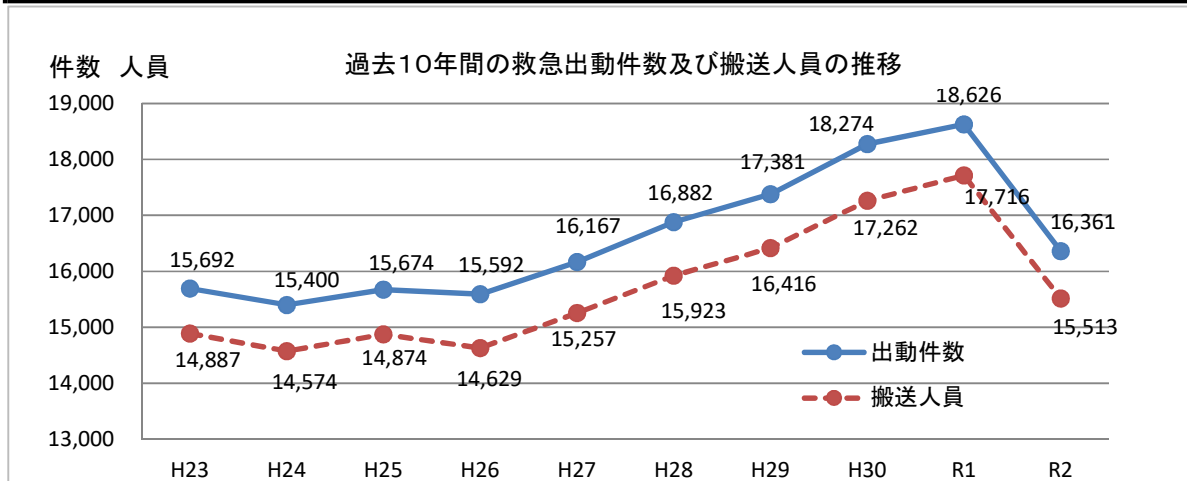
区分	合計	たばこ	たき火	こんろ	火遊び	放火	放火の疑い	ストーブ	その他
平成28年	99	12	7	6		31	5		38
平成29年	80	12	10	4	2	6	6	4	36
平成30年	68	3	10	6	1	6	4	4	34
令和元年	59	7	11	2	0	3	5	1	30
令和2年	57	4	7	2	0	7	5	3	29



4 過去10年間の救急活動状況

令和2年中の救急出動件数は16,361件、搬送人員は15,513人であり、前年の18,626件、17,716人に比べ出動件数は2,265件(12.2%)、搬送人員は2,203人(12.4%)減少しています。出動件数を事故種別でみると、急病11,021件(67.4%)、一般負傷2,372件(14.5%)で全体の81.9%を占め、交通事故1,234件(7.5%)、前記以外の1,734件(10.6%)となっています。救急車の1日平均出動件数は44.8件(前年51.0件)で32.1分(前年28.2分)に1回の割合で救急隊が出動したことになります。搬送人員を事故種別でみると、急病10,554人(68.0%)、一般負傷2,304人(14.9%)、交通事故1,278人(8.2%)、前記以外事故1,377人(8.9%)となっています。

区分	(上段) 出動件数							(下段) 搬送人員				
	合計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
H23	15,692	94	2	5	1,846	168	123	1,829	73	169	10,252	1,131
	14,887	15			1,955	167	128	1,773	67	126	9,781	875
H24	15,400	67		11	1,763	156	140	1,807	76	125	10,189	1,066
	14,574	17		2	1,846	155	140	1,740	64	92	9,713	805
H25	15,674	63		6	1,812	147	128	1,914	76	153	10,380	995
	14,874	8		3	1,902	147	132	1,836	74	107	9,883	782
H26	15,592	71	2	4	1,747	154	111	1,923	60	142	10,289	1,089
	14,629	14	2		1,834	154	115	1,844	55	101	9,700	810
H27	16,167	50	1	8	1,615	184	131	2,080	66	139	10,669	1,224
	15,257	6	1	2	1,716	180	131	1,995	57	109	10,109	951
H28	16,882	60		6	1,654	140	128	2,211	56	142	11,191	1,294
	15,923	16		1	1,732	137	131	2,132	46	106	10,591	1,031
H29	17,381	71	1	4	1,699	149	113	2,274	63	138	11,554	1,315
	16,416	13	1		1,782	144	113	2,183	55	106	10,985	1,034
H30	18,274	51	7	3	1,511	175	138	2,349	60	121	12,448	1,411
	17,262	9	7		1,551	174	141	2,272	49	88	11,875	1,096
R1	18,626	54		6	1,498	166	125	2,411	51	132	12,798	1,385
	17,716	9		1	1,523	165	126	2,347	48	94	12,313	1,090
R2	16,361	53		7	1,234	144	83	2,372	37	127	11,021	1,283
	15,513	8			1,278	142	83	2,304	35	97	10,554	1,012



5 曜日・月別救急搬送人員

曜日別にみると、ほぼ平均しており、曜日により大きな差異は認められないが、搬送人員の半数以上を占める急病は、月曜日に多く発生している傾向が見られます。

月別にみると、搬送人員は1月が最も多く、4月が最も少なくなっています。

令和2年中

事故種別 区分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
曜 日 別	月				190	23	10	339	1	11	1,600	186	2,360
	火				156	29	9	320	4	12	1,469	170	2,169
	水	2			206	23	9	327	3	12	1,501	161	2,244
	木	1			186	29	7	326	6	14	1,574	170	2,313
	金	1			213	24	6	324	7	10	1,463	179	2,227
	土	3			177	11	9	334	10	16	1,370	98	2,028
	日	1			150	3	33	334	4	22	1,577	48	2,172
合計		8			1,278	142	83	2,304	35	97	10,554	1,012	15,513
月 別	1月				120	12	4	224	3	9	1,118	92	1,582
	2月				128	7	7	187	8	10	885	72	1,304
	3月				115	11		175		6	832	69	1,208
	4月	1			74	12	1	180	1	8	719	88	1,084
	5月				98	7	1	165	6	7	776	88	1,148
	6月	1			76	12	7	176	4	10	824	102	1,212
	7月	2			98	8	12	184	1	5	808	83	1,201
	8月				95	30	10	165	1	10	1,063	74	1,448
	9月				104	13	15	196	1	14	895	75	1,313
	10月	1			136	11	10	241	5	5	907	76	1,392
	11月	2			119	9	11	191	3	7	816	85	1,243
	12月	1			115	10	5	220	2	6	911	108	1,378

6 年齢区分・傷病程度別救急搬送人員

搬送人員15,513人のうち、重症者は1,140人(7.3%)、中等症者は6,341人(40.9%)、入院加療を必要としない軽症者は7,784人(50.2%)となっています。

搬送人員を年齢別で見ると、高齢者が10,058人(64.8%)と全体の多くを占めています。

令和2年中

事故種別 区分		合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合 計	合計	15,513	8			1,278	142	83	2,304	35	97	10,554	1,012
	死亡	248				3			21		18	205	1
	重症	1,140	1			50	13	1	60		9	803	203
	中等症	6,341	4			241	48	16	880	7	29	4,416	700
	軽症	7,784	3			984	81	66	1,343	28	41	5,130	108
	その他												
新 生 児	小計	111				1						6	104
	死亡												
	重症	14										1	13
	中等症	91										5	86
	軽症	6				1							5
	その他												
乳 幼 児	小計	506				34			162			286	24
	死亡	2										2	
	重症	9				2							7
	中等症	153				4			22			110	17
	軽症	342				28			140			174	
	その他												
少 年	小計	469				110	1	51	43	3	5	248	8
	死亡	2									1	1	
	重症	12				5		1	1		1	3	1
	中等症	124				14	1	11	8		1	84	5
	軽症	331				91		39	34	3	2	160	2
	その他												
成 人	小計	4,369	3			729	107	28	337	24	72	2,835	234
	死亡	42							2		8	31	1
	重症	256				20	12		7		5	167	45
	中等症	1,232	1			117	31	5	83	4	23	806	162
	軽症	2,839	2			592	64	23	245	20	36	1,831	26
	その他												
高 齢 者	小計	10,058	5			404	34	4	1,762	8	20	7,179	642
	死亡	202				3			19		9	171	
	重症	849	1			23	1		52		3	632	137
	中等症	4,741	3			106	16		767	3	5	3,411	430
	軽症	4,266	1			272	17	4	924	5	3	2,965	75
	その他												

新 生 児 : 生後28日未満の者 成 人 : 満18歳以上、満65歳未満の者
 乳 幼 児 : 生後28日以上、満7歳未満の者 高 齢 者 : 満65歳以上の者
 少 年 : 満7歳以上、満18歳未満の者

注)傷病程度区分の「その他」は、医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したものを。

7 救助活動状況

令和2年中の救助出動件数178件、救助人員100人であり、前年の234件、112人に比べ出動件数は56件減少し救助人員は12人減少しています。

出動件数を区分で見ると、建物等による事故72件と交通事故49件によるものがあわせて121件となり、全体の68.0%を占めています。

また、活動件数の区分では、建物等による事故が56件(49.1%)で最も多く、次いで、交通事故が34件(29.8%)となっています。

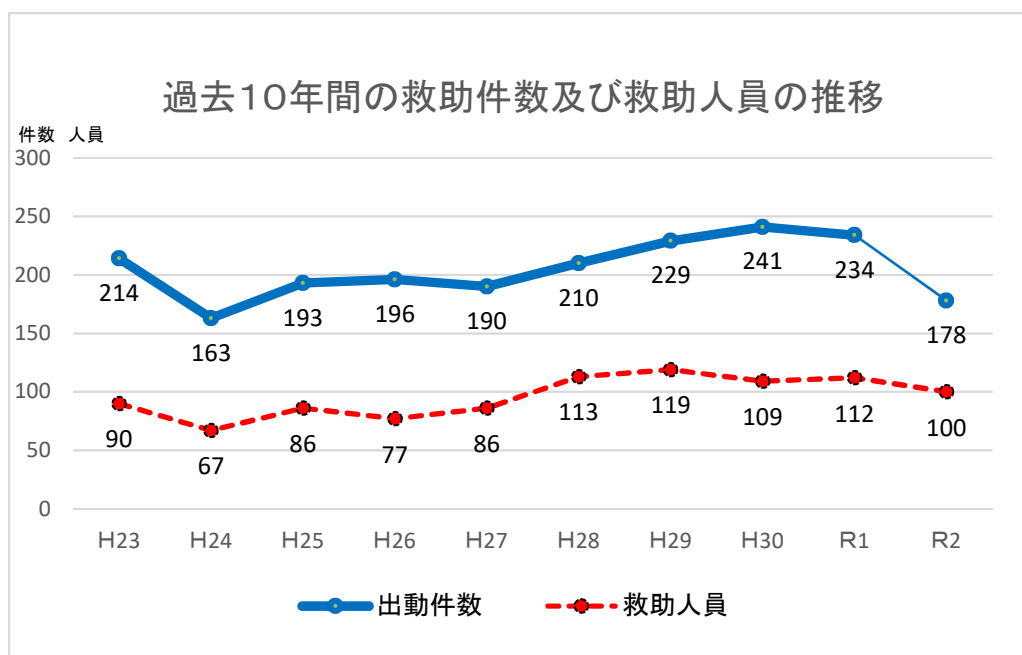
令和2年中

区 分	出動件数	出 動		活動件数	活動人員	救助人員
		台 数	人 員			
合 計	178	869	3,163	114	1,298	100
火 災	9	146	516	9	109	4
交 通 事 故	49	228	827	34	376	45
水 難 事 故	5	26	93	1	14	
風 水 害 等 自 然 災 害 事 故						
機 械 による 事 故	1	6	21	1	15	1
建 物 等 による 事 故	72	288	1,061	56	627	39
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	2	8	31	2	19	
破 裂 事 故						
そ の 他 の 事 故	40	167	614	11	138	11

※建物等による事故

一人暮らしや家族が不在の場合に、体調が悪くなり救急要請をしたが自力で玄関を解錠できずに建物内に閉じ込められたものや、トイレや浴室のドアが壊れ閉じ込められたものなどが該当します。

8 過去10年間の救助活動状況



※令和2年から国の統計事務に併せて、出動件数の算出方法を変更。



発行：令和3年1月

修正：令和3年4月

編集：一宮消防署管理課

TEL：0586-72-1190(直通)

FAX：0586-72-1277

Mail：f-kanri@city.ichinomiya.lg.jp